

# 館蔵資料紹介「極秘諸国城図」

——「江戸始図」「大坂 真田丸」を収める城絵図群——

木下 誠

## はじめに

平成26年(2014)7月と平成27年2月、このわずか半年の間に、松江歴史館の所蔵資料から、未解明の城を描いた絵図が新たに見つかったとして、相次いで報道発表した。大坂冬の陣に際して豊臣方の武将真田信繁(幸村)が築城した真田丸を描く「大坂 真田丸」<sup>(1)</sup>と、徳川家康築城時の江戸城を描く最古級の「江戸始図」<sup>(2)</sup>である。いずれも新聞の一面を飾るなど、大きな反響があった。

本稿では、この「大坂 真田丸」と「江戸始図」を収める城絵図群「極秘諸国城図」について、現段階での概要を紹介し、今後の城絵図研究の素材を提供したい。

## 1. 「極秘諸国城図」の館蔵までの経緯

昭和25～30年(1950～55)の松江城天守解体修理に際し、松江市は城に関する資料の調査・収集を精力的に行っており、「極秘諸国城図」はその中で昭和28年に旧藩士の子孫にあたる市民が松江市に寄贈したものである。なお、寄贈者が「極秘諸国城図」をなぜ所有していたかなどの来歴は不明で、今後解明すべき課題である。

「極秘諸国城図」は松江城本丸内にある松江城山管理事務所がこの昭和の松江城天守解体修理の際に収集した資料群とともに保管していたが、平成23年(2011)3月に松江歴史館が開館すると、「極秘諸国城図」を含めた天守解体修理資料の多くを松江歴史館が所蔵することになった。

## 2. 「極秘諸国城図」の館蔵までの経緯

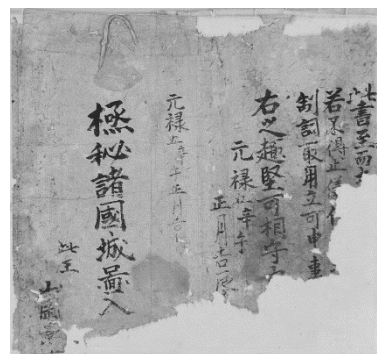
松江市は「極秘諸国城図」を受贈後、厚手の和紙の表紙と裏表紙を加えて四つ目綴じしたようである。表紙の中央には「極秘諸国城図 七拾四枚」、左側には寄贈者の住所氏名を墨書している。右側には天守解体修理関連資料を松江市が整理した分類番号「絵図第四拾貳号」を朱書きしている。

この和綴じした中には、「極秘諸国城図」の各図を折り畳んで収納したとみられる袋の一部を台紙に貼ったものがある。

この収納袋には次に掲げるとおり墨書が一部残っている。「極秘諸国城図」という名称は、収納袋に見える墨書「極秘諸国城図入」から付与したとみられる。

「元禄五辛午」の墨書から「極秘諸国城図」は元禄5年(1692)以前の製作物だと推定できる。ま

此書至而□「  
若不得止□(儀カ)□「  
制詞取用立可申事「  
右之趣堅可相守□「  
元禄五辛午  
正月吉辰「  
元禄五辛午正月吉□  
極秘諸国城図入  
此主  
山岡景□



「元禄五辛午」の墨書から「極秘諸国城図」は元禄5年(1692)以前の製作物だと推定できる。また、文末には「此主/山岡景□」と墨書があり、元禄5年時点での「極秘諸国城図」の所有者が記されている。

「極秘諸国城図」は、寄贈者の所有時点でも厚手の和紙の表紙と裏表紙で和綴じの状態では保管されていたとみられる。その表紙には、中央に「城之図」と墨書があり、右下には寄贈者の朱印が押されている。なお、左下には「此主 山岡景茂」の付箋が貼られているが、付箋が貼られたか時期や寄贈者と山岡との関係は不明である。

ところで、「極秘諸国城図」は後述するように元々は折り畳んで収納されていたと考えられ、和綴じは後世に取られた処置であり、今後の活用の際には和綴じではノド部分を傷める可能性があることから、松江歴史館では和綴じを解いて各図を単体で保管・活用することにした。

### 3. 「極秘諸国城図」各図の形態とその特徴

「極秘諸国城図」は、東北から九州に至る各地の城郭や城下町を描く74舗の絵図群である(表1、図1~74)。

各図とも平均縦27.4cm、横40.0m程度の料紙に彩色で描画しており、裏打ちされている。また、各図には10×13cm程度に折り畳んだとみられる折り目がある。

なお、残念なことに、各図の表面には鉛筆で綴られていた城図の通し番号が書かれている。また、紙面の端にある文字や絵が途中で切れているものがあり、いくつかの図はどこかの段階で紙端が切断された可能性がある。

74舗中64舗の図の表面には国名や城名を墨書した付箋が貼られている。そのうち51舗の付箋には「稻信」(12舗)、「古城」(3舗)、「浅三」(1舗「江戸始図」)などが付記されている。なお、付箋が裏面にあったり、付箋が剥落したためか、城名の記載がない図や、描画の城とは異なる城名の付箋を貼る図があるが、それらは描画の城でもって城図名とした(表1)。ちなみに「信州小室」城図は2舗あることから、採録城数は73城になる。

「極秘諸国城図」に収まる図を国別にみると、信濃が7舗と最も多く、次いで三河が6舗、摂津と武蔵が4舗となっており、出雲の城図は含まない(表2)。武蔵のうち2舗は江戸城の図である。

この2舗の江戸城図である慶長12~14年の江戸城を描いたと比定できる「江戸始図」<sup>(3)</sup>と、明暦3年(1657)の大火後の江戸城を描いたとみられる「今江戸図」<sup>(4)</sup>は、同じ構図を描き、両図を対比

するため作製したと考えられる。「極秘諸国城図」は元禄5年(1692)以前の製作物だと推定できることから、この2舗の江戸城図は17世紀中～後半に描かれた江戸城図といえることができる。

#### 4. 広島市立中央図書館浅野文庫蔵「諸国当城古城之図」との関連性

「極秘諸国城図」所収の「大坂 真田丸」は、広島市立中央図書館が旧広島藩主浅野家から寄贈を受けた浅野文庫に納まる「諸国古城之図」所収の図「摂津 真田丸」と描写が酷似することが指摘されている<sup>(5)</sup>。

浅野文庫には、広島藩主浅野氏が製作した各地の城絵図集「諸国当城古城之図」がある。177舗の「諸国古城之図」<sup>(6)</sup>と154舗の「諸国当城之図」<sup>(7)</sup>からなり、「諸国古城之図」と「諸国当城之図」には各図を収納するそれぞれ専用の小箆笥(幅・奥行とも約18cm、高さ約27cm)がある。各図は平均27.7×40.2cmの料紙に丁寧に描かれており、彩色が施してある。いずれも6.9×13.4cmの大きさに畳まれて、前述した専用の小箆笥に納められている。

このように、「極秘諸国城図」の各図は、「諸国当城古城之図」とほぼ同じ大きさであり、折り畳むという取扱い方法も類似するなど、共通点がいくつもある。ただし、「諸国古城之図」は石垣や山・田地などの描き方が統一され表現が全体をとおしてほぼ揃っている<sup>(8)</sup>が、「極秘諸国城図」では筆致が荒い図も一部あり、石垣・山などの表現や彩色の色調が異なる図があるなど、数種類の図が混在していると考えられる。

#### 5. 元禄5年時点の「極秘諸国城図」の所有者とみられる「山岡景口」についての一検討

来歴が明らかでない中で、「極秘諸国城図」作製の目的や時期を把握するには、収納袋に書かれた元禄5年(1692)時点の所有者とみられる「山岡景口」の人物の解明が求められることから、若干検討しておきたい。

前述の「諸国当城古城之図」(広島市立中央図書館蔵)は広島藩主の浅野家が旧蔵していたように、大名家が諸国の城絵図群を所有していた例はいくつもある<sup>(9)</sup>。「江戸始図」という初代将軍が手掛けた江戸城の城郭構造を詳細に描く機密性の高い城絵図を含む「極秘諸国城図」も、元禄5年時点では大名家や幕府内でも限られた者しか手にすることができなかつたのではないだろうか。「極秘」としてのことからも、機密性の高さがうかがえる。一藩士の子孫の松江市民からの寄贈であっても、即ち松江藩に関わるものとするのではなく、様々な視点での検討が必要だと考える。

その意味で幕臣に目を向けると、名前に「景」の字を用いる山岡一族がいるが、このうち元禄5年頃の3つの山岡家を『寛政重修諸家譜』より紹介する<sup>(10)</sup>。

1家目の山岡景宗は、承応3年(1654)に御書院の番士、のちに山岡半兵衛某の養子となり、寛文元年(1661)に山岡家を継いでいる。延宝6年(1678)には遠江国浜松城の城引渡し役を務めるなどしたが、元禄14年(1701)に非義の計らいにより、伊豆国大嶋に流罪となっている。

2家目の山岡景助は、寛永20年(1643)に13歳で御小姓組の番士、慶安3年(1650)には西城御書院の番士となり、寛文9年(1669)に山岡家を継いでいる。貞享4年(1687)には長崎奉行に

すすみ、石高の加増があり 2,000 石を知行する。元禄 4 年(1691)に従五位下対馬守に叙任せられ、元禄 7 年に致仕している。

3 家目の山岡景好は、寛文 10 年(1670)に山岡家を継ぎ、小普請となる。延宝 3 年(1675)には大番に列し、元禄 15 年(1702)には新番に転じ、宝永 5 年(1708)に致仕している。

このように、名を「景口」とする山岡は幕臣に多く見られるが、付箋にみえる「景茂」はなかった。

なお、『列士録』によると、松江藩士にも山岡家が 2 家ある。元禄 5 年時点では、山岡久左衛門(三代目)と、山岡与一郎(元祖)である<sup>(11)</sup>。

山岡久左衛門(三代目)は石高 300 石で、元禄 5 年 7 月には大御番組に帰番している。なお、この祖父にあたる山岡久左衛門(元祖)は山岡主計守の肝煎で松平直政に召し出されている。『寛政重修諸家譜』によると「山岡」で主計守は確認できないが、前述した山岡景好の 3 代前の景以は主計頭との記載もあることから、この山岡主計守は山岡景以の可能性がある。

山岡与一郎(元祖)は寛永 19 年(1642)に小算用として召し出され、父の跡 18 石 3 人扶持で取立てられ、元禄 5 年の 9 月に隠居している。

## おわりに

本稿では、「極秘諸国城図」の全体像とその概要の一端を示し、17 世紀中～後半に成立したと考えられる諸国の城図群であることを指摘した。また、浅野文庫蔵「諸国当城古城之図」との関連性や元禄 5 年(1692)時点での所有者とみられる「山岡景口」についても若干触れた。今後も、「山岡景口」の人物や付箋に付記されている「稲信」などの意味の検討、他の諸国城図集との詳細比較や個々の城図の詳細検討により、「極秘諸国城図」の製作目的などが解明されるのではないかと考える。

## 注

- (1) 千田嘉博「新発見の「大坂 真田丸」絵図の学術的価値について」(『松江歴史館研究紀要』5、2016 年)。
- (2) 千田嘉博・森岡知範『江戸始図でわかった「江戸城」の真実』(宝島社新書、2017 年)。
- (3) 千田、注 2 著書。
- (4) 後藤宏樹「22 今江戸図」(図録『松江城と江戸城』松江城歴史価値発信事業実行委員会・千代田区、2017 年)。
- (5) 千田、注 1 論文。
- (6) 矢守一彦「浅野文庫蔵「諸国古城之図」について」(矢守一彦編『浅野文庫蔵諸国古城之図』新人物往来社、1981 年)。
- (7) 矢守一彦「浅野文庫蔵「諸国当城之図」について」(原田伴彦・矢守一彦編『浅野文庫蔵諸国当城之図』新人物往来社、1982 年)。
- (8) 矢守、注 6 論文。
- (9) 白杵市立白杵図書館が所蔵する豊後白杵藩藩主稲葉家から引き継いだ絵図群(白杵市教育委員会『白杵市所蔵絵図資料群調査報告書』、2005 年)や、前田育徳会尊経閣文庫が所蔵する加賀藩主前田家伝来の「諸国居城図」(前田育徳会尊経閣文庫編『尊経閣文庫蔵 諸国居城図』新人物往来社、2000 年)など。
- (10) 『寛政重修諸家譜』第 17 卷(属群書類従完成会)。
- (11) 『松江藩列士録』第 4 卷(島根県立図書館、2005 年)。

(きのした・まこと 松江歴史館主幹〔学芸係長〕)

表1 「極秘諸国城図」採録図一覧

No.	城図名	(付記)	貼札	寸法(cm)	備考
1	江戸始図	浅三	○	27.6 × 40.0	朱印あり
2	今江戸図		○	27.5 × 40.3	
3	摂州大坂	遠山	○	27.8 × 39.6	
4	山城二條		○	27.5 × 40.3	
5	山城淀		○	27.2 × 40.2	
6	和州高取	小佐	○	27.5 × 39.1	
7	● 勢州桑名	稲信		27.3 × 39.6	貼札・図名記載なし
8	勢州長嶋		○	27.3 × 40.0	
9	● 勢州亀山	本隠	○	27.2 × 40.2	「勢州桑名 稲信」の貼札あり
10	志州鳥羽	小地	○	27.4 × 40.0	「勢州亀山 本隠」の貼札もあり
11	尾州犬山	松丹	○	27.0 × 40.4	
12	● 三州岡崎	本		27.7 × 40.5	貼札・図名記載なし
13	参州吉田		○	27.3 × 39.3	
14	参州苅屋	木浅	○	27.4 × 39.9	
15	遠州浜松	富覚	○	27.3 × 40.0	
16	遠江横須賀城	稲信	○	27.6 × 40.4	
17	駿州田中	富覚	○	27.5 × 40.3	「武蔵岩付之城」の貼札もあり
18	甲府城	平岡	○	27.8 × 40.2	
19	武州忍城	杵田	○	27.5 × 40.4	
20	● 武蔵岩付之城		○	27.4 × 39.6	「三州岡崎 本」の貼札あり
21	下総佐倉	替ノ杵五	○	27.3 × 39.9	
22	下総関宿	石野	○	27.5 × 40.2	
23	常州笠間	奥田	○	27.5 × 40.4	
24	江州膳所	本口(隠 <sub>り</sub> )	○	27.5 × 40.0	
25	濃州大垣ノ図	今戸田氏居城		27.5 × 40.5	裏面に「(美濃大垣) 三浦」とみられる貼札あり
26	濃州加納	稲信	○	27.5 × 40.5	
27	信州飯山		○	27.5 × 40.6	
28	信州小室		○	27.7 × 40.5	
29	● 信州松代		○	27.8 × 39.9	「(信)」(欠損)の貼札あり
30	信州松本	三浦	○	27.5 × 39.5	
31	信州上田	木茂	○	27.1 × 37.7	
32	信州小室	稲信	○	27.8 × 39.8	
33	信州高嶋	稲信	○	27.5 × 40.5	
34	上野前橋	加兵	○	27.7 × 40.4	
35	奥州会津城	松匠	○	27.8 × 39.9	
36	奥州白川	稲信	○	27.6 × 40.3	
37	● 奥州岩城	稲信ノ平之城図		26.5 × 39.3	裏面「奥州岩城 稲信ノ平之城図」とみられる貼札あり
38	● 羽州山形城図			26.8 × 39.2	裏面に「羽州山形城図」とみられる貼札あり
39	羽州鶴ヶ岡	三	○	27.0 × 39.9	

No.	城図名 (付記)	貼札	寸法(cm)	備考
40	越前福井 遠山	○	27.5 × 39.5	
41	越前丸岡之城	○	27.5 × 40.2	
42	越後高田 松遠	○	27.9 × 40.0	
43	越後長岡	○	27.2 × 40.4	
44	越中富山	○	27.3 × 40.3	
45	丹州亀山	○	26.8 × 39.7	
46	丹波福知山		27.4 × 40.1	裏面に「丹州福知山 三」とみられる貼札もあり
47	丹州宮津 木茂	○	27.7 × 39.5	
48	因州鳥取 高木	○	27.9 × 40.6	
49	播州姫路 石	○	27.6 × 39.7	
50	作州津山 松遠	○	27.5 × 39.7	
51	備前岡山 稲信	○	27.4 × 39.7	
52	備後福山 稲信	○	27.7 × 39.5	
53	芸州廣島	○	27.5 × 40.0	
54	長州萩 菅弥	○	27.7 × 40.2	
55	紀州和歌山		27.8 × 40.4	
56	阿波徳嶋 小内	○	27.8 × 39.5	
57	讃州高松 松遠	○	27.7 × 39.7	
58	予州今張 小佐	○	27.7 × 39.9	
59	筑前福岡 石	○	27.3 × 40.5	
60	豊前中津 稲信	○	27.5 × 40.6	
61	豊後府内 稲信	○	27.8 × 40.3	
62	豊後岡城 稲信	○	27.2 × 39.9	
63	肥州嶋原 前	○	27.4 × 40.4	
64	肥州唐津 山上	○	27.7 × 40.3	
65	上総大瀧 古城	○	27.5 × 40.7	
66	小山(遠江) 古城	○	27.7 × 40.2	
67	尾州鳴海 古城	○	27.8 × 40.5	
68	大坂 真田丸	○	27.8 × 40.6	
69	岡山 御陣城	○	27.6 × 40.5	
70	茶うす山 御陣城	○	27.7 × 40.0	
71	参州根小屋城図		27.3 × 39.2	
72	● 参州浄古斎 野田ニ有リ		25.5 × 38.3	城図名の「参州」部分が欠損
73	参州宇利古城		25.5 × 38.0	
74	泉州岸和田 大野	○	26.9 × 39.7	

※「No.」欄は、綴られていた順番

※●印は、描画の城でもって城図名としたものを示す

※「貼札」欄の○印は、図の表面に貼札があることを示す

表2 「極秘諸国城図」国別採録数

畿内・七道別	国別	畿内・七道別	国別	
畿内	摂津	山陰道	丹波	
	山城		丹後	
	大和		但馬	
	和泉		因幡	
	河内		伯耆	
東海道	伊賀	山陽道	出雲	
	伊勢		隱岐	
	志摩		石見	
	尾張		播磨	
	三河		美作	
	遠江		備前	
	駿河		備中	
	伊豆		備後	
	相模		安芸	
	甲斐		周防	
	武蔵		長門	
	安房		南海道	紀伊
	上総			淡路
	下総			阿波
	常陸			讃岐
東山道	近江	西海道	伊予	
	美濃		土佐	
	飛騨		筑前	
	信濃		筑後	
	上野		壱岐	
	下野		対馬	
	陸奥		豊前	
	出羽		豊後	
北陸道	若狭	合計	肥前	
	加賀		肥後	
	能登		薩摩	
	越前		大隅	
	越中		74	
	越後			
	佐渡			

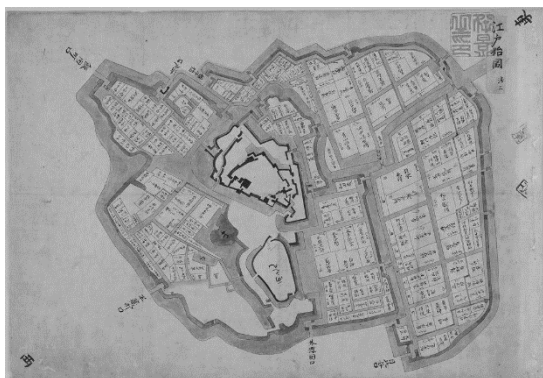


図1 江戸始図

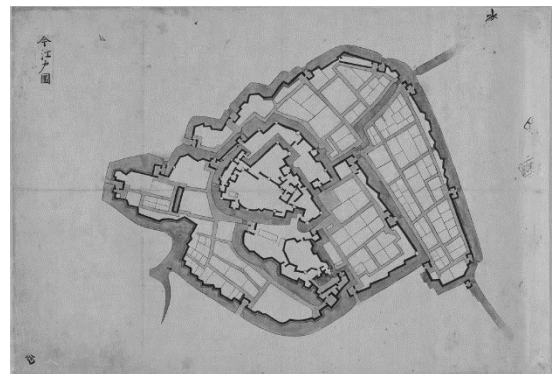


図2 今江戸図

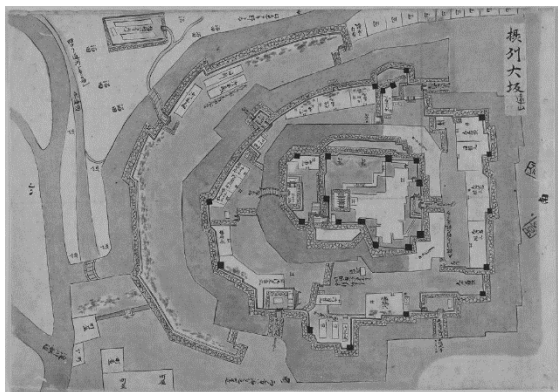


图3 摄州大坂

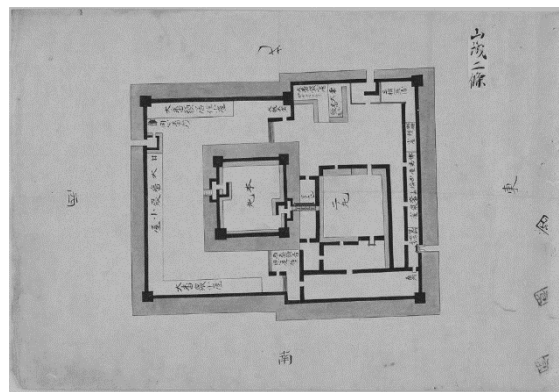


图4 山城二條



图5 山城淀

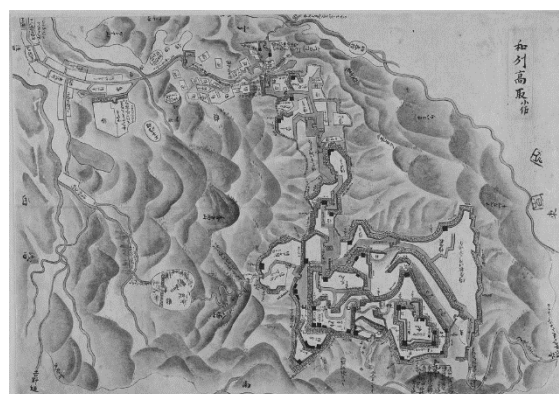


图6 和州高取

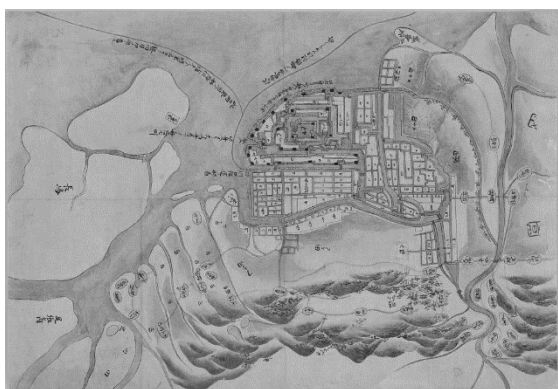


图7 勢州桑名

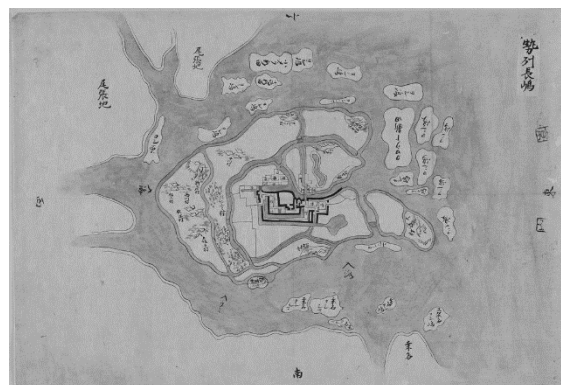


图8 勢州長嶋

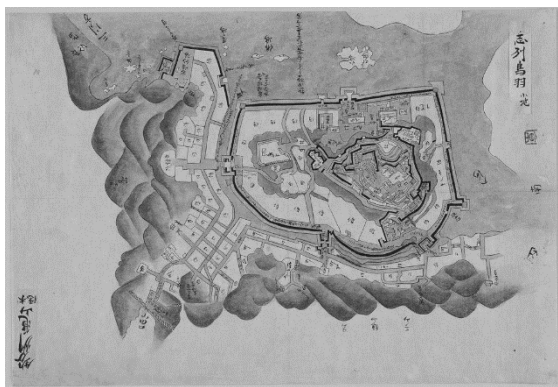


图9 勢州龜山

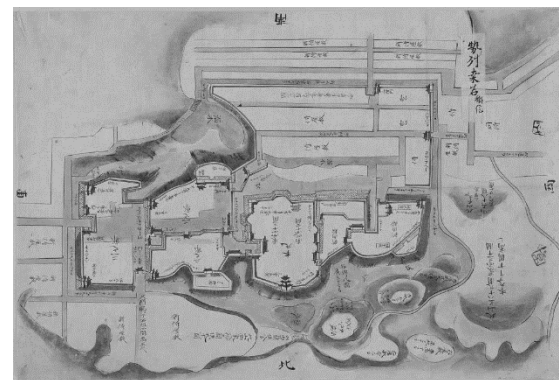


图10 志州鳥羽



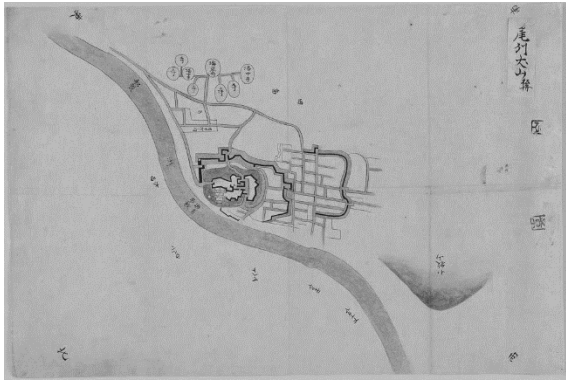


图 11 尾州犬山



图 12 三州岡崎

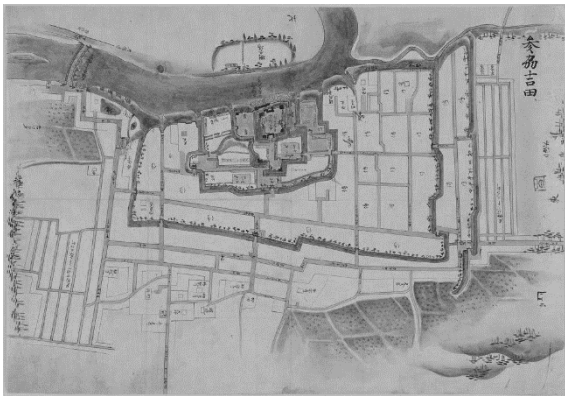


图 13 参州吉田

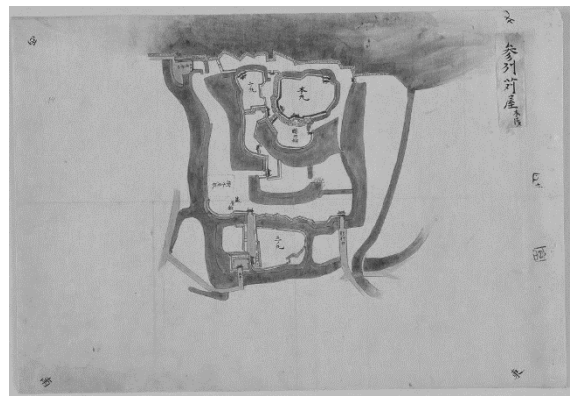


图 14 参州苅屋

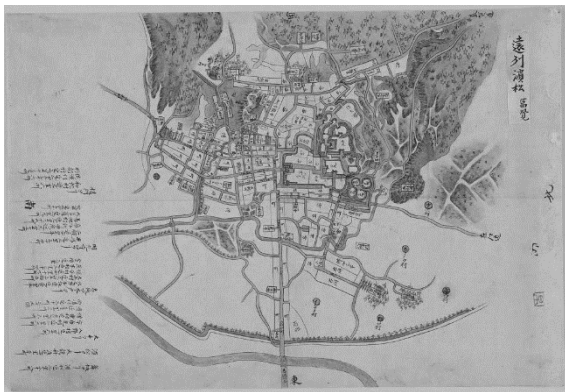


图 15 遠州浜松

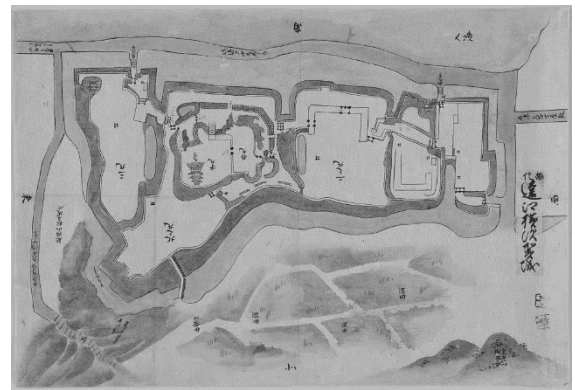


图 16 遠江横須賀城

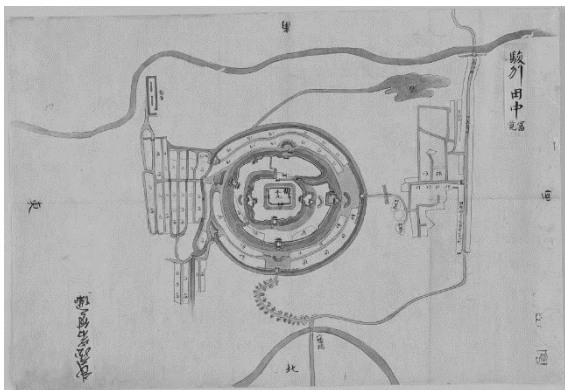


图 17 駿州田中

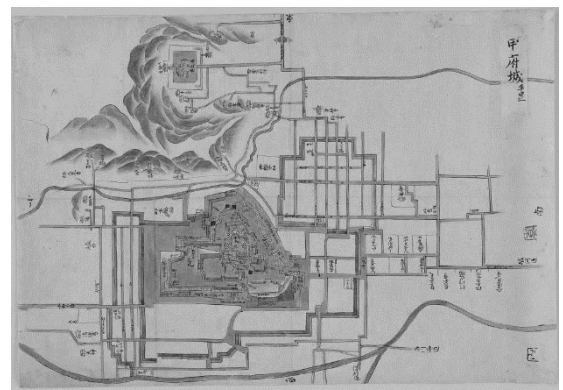


图 18 甲府城



图 19 武州忍城

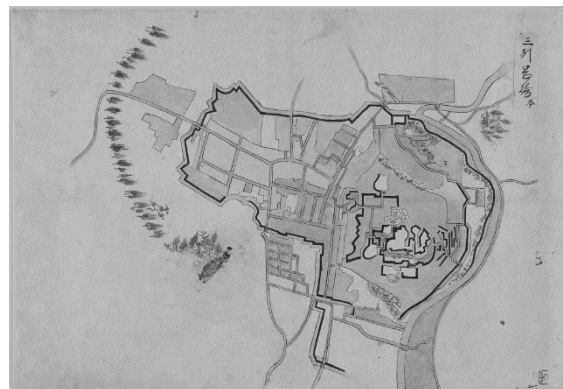


图 20 武蔵岩付之城

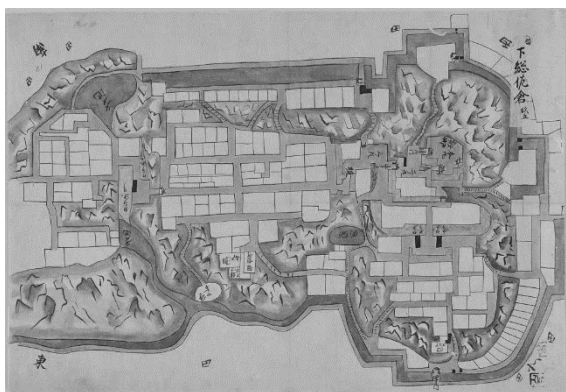


图 21 下総佐倉



图 22 下総関宿

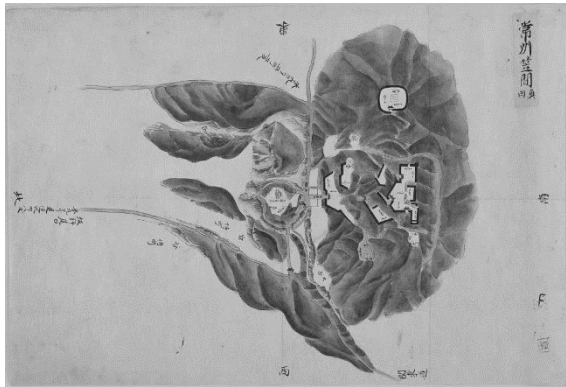


图 23 常州笠間

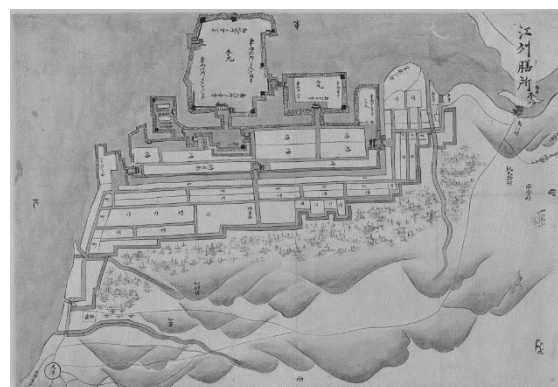


图 24 江州膳所



图 25 濃州大垣ノ図

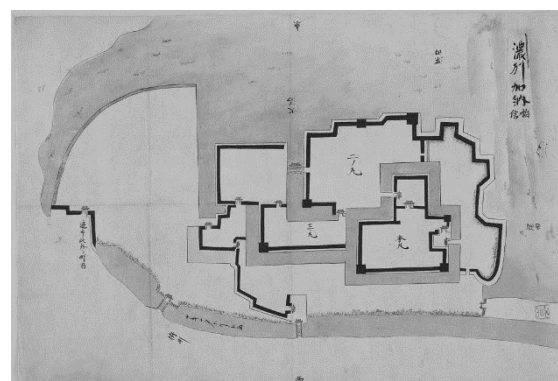


图 26 濃州加納

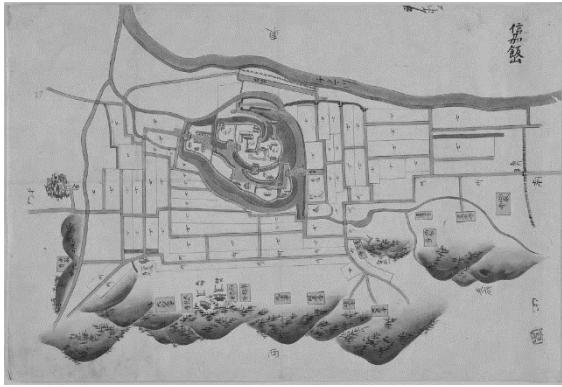


图 27 信州飯山

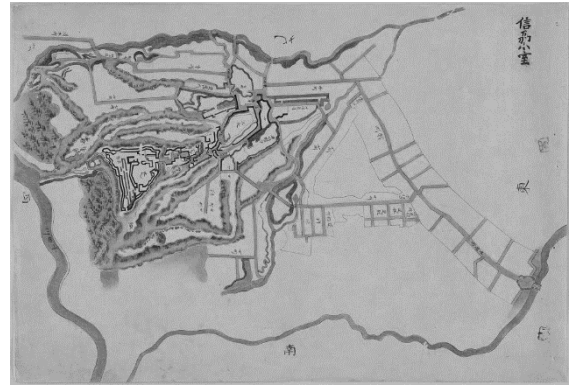


图 28 信州小室

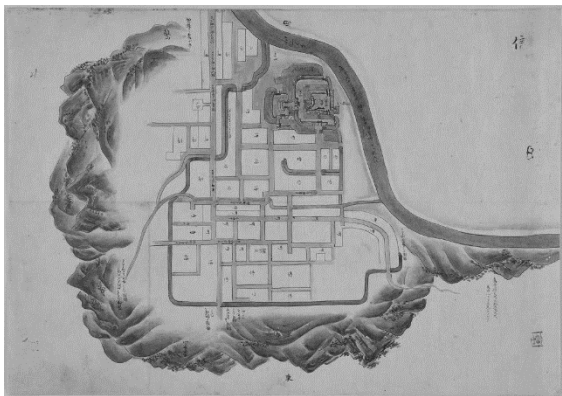


图 29 信州松代

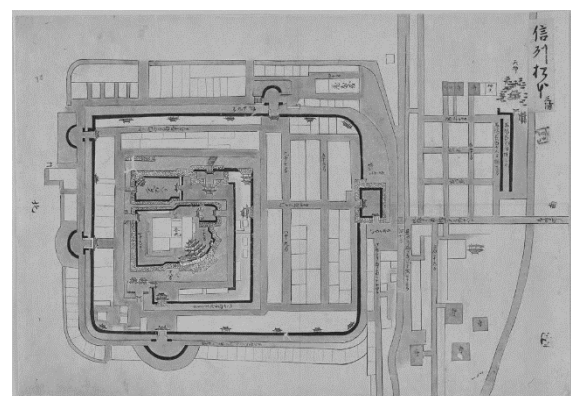


图 30 信州松本

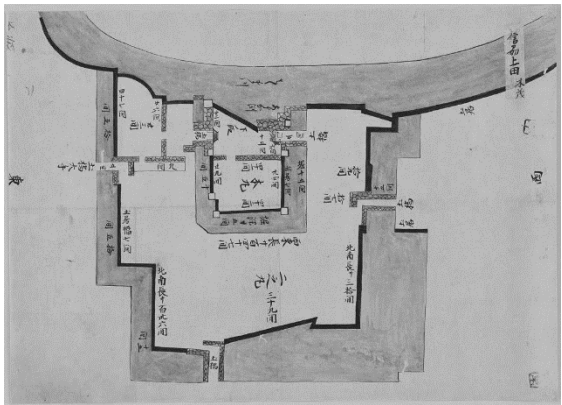


图 31 信州上田

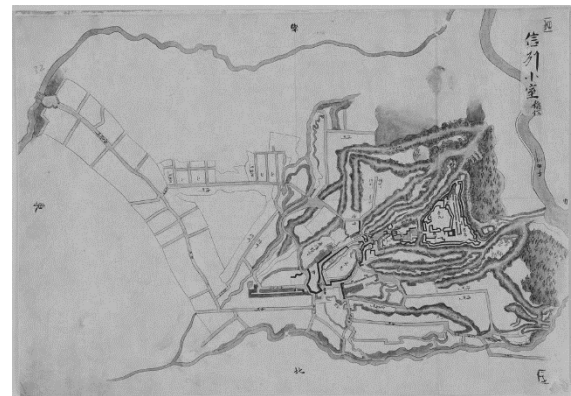


图 32 信州小室

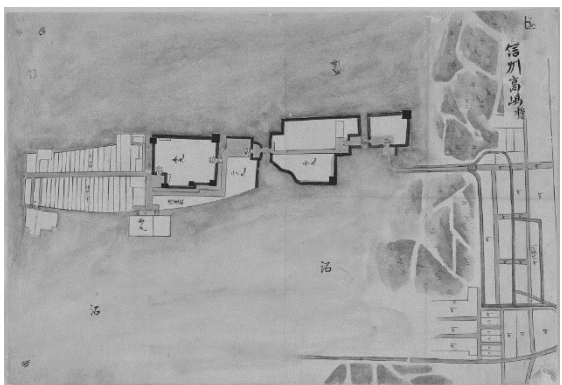


图 33 信州高嶋

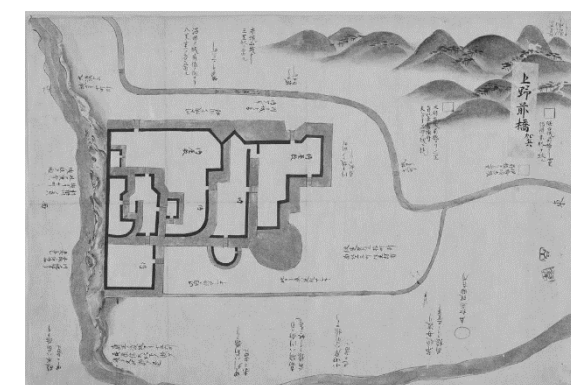


图 34 上野前橋

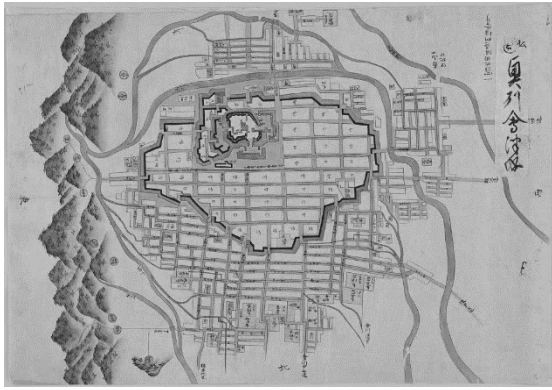


图 35 奥州会津城

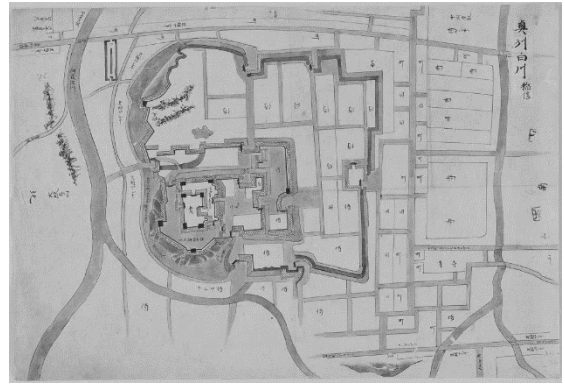


图 36 奥州白川

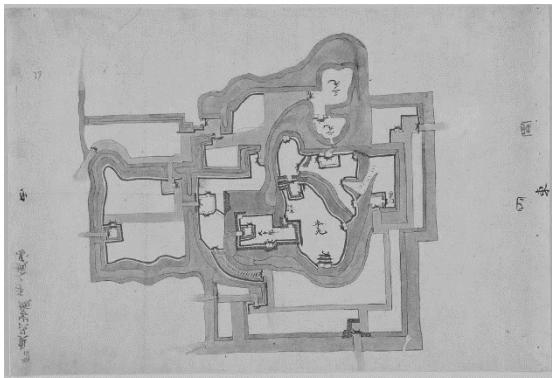


图 37 奥州岩城

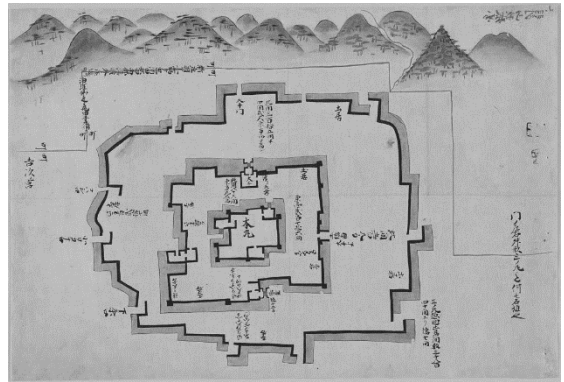


图 38 羽州山形城图

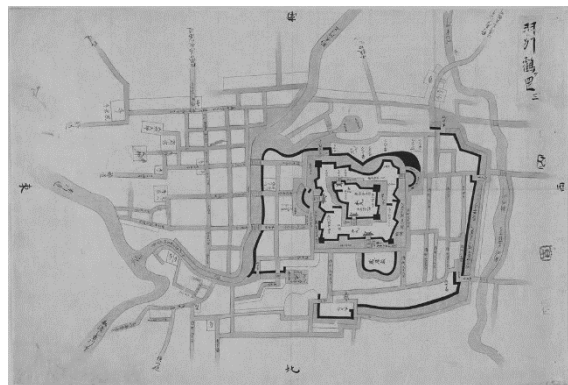


图 39 羽州鶴ヶ岡

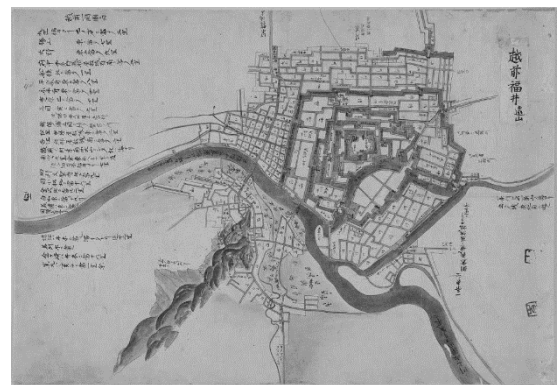


图 40 越前福井

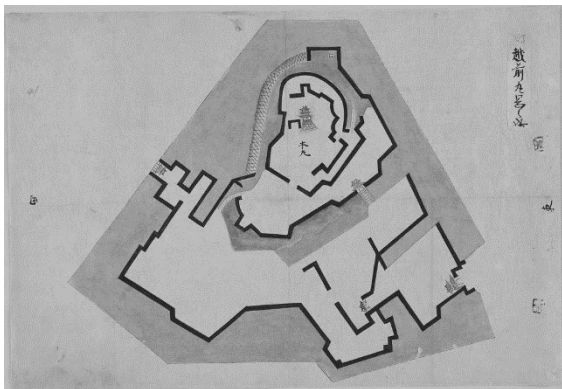


图 41 越前丸岡之城

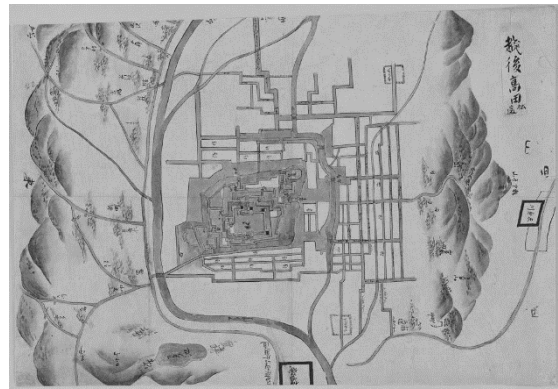


图 42 越後高田